

(飛鳥藤原地区)

藤原京左京七条一坊西南坪の調査

昭和40年代に建てられた市営住宅の建て替えに伴う調査で4月3日から開始しました。厚さ1m余りの盛土と旧耕作土などを重機で掘削。一週間を要しました。今回は調査の前半段階として、坪の中心を含む約2000㎡について行い、その終了後(7~9月)土盛地とした部分の調査を進める予定。現状(5月末段階)で判明している遺構は次の通りです。

大型東西棟建物1棟：桁行8間以上(約22m)、梁行2間(約6m)。建物の中心が坪を東西に二分する中軸線に揃うことから坪の中心建物(正殿)かその前の前殿と期待しましたが、調査区内には、他に大きな建物がありません。右京七条一坊西南坪のような一つの坪に整然と建物を配置した利用形態にはないようです。建物は七世紀前半の遺物を含む整地土上に建ち、それに見合う掘立柱建物も数棟あります。

大型建物の東・北方は一段低い「谷・沼」状を呈します。北東約200mにある低丘陵との間の谷地形に立地していますが、古代にそれをどのように利用していたかが課題となります。

砂層の上に粘土層が堆積し、その間の木質層には多量の木簡が含まれています。「池か？」

木質層の土をすべて整理室に持ち帰り水洗いして、木簡と「削り屑」の判読を続けています。これまでのところ「**宮」「**省」の文字がみえるが、他に多様な内容があり、木簡群や遺跡の性格をめぐって、多方面からの検討をしばらく続けなければなりません。

6月初めには航空写真測量。末日には「現地説明会」を予定しています。